

「空気を読まない」場を造る

長久手市立北中学校

二年 緒方 遙希

とある日の授業中に進めていた議論の中で、一人のクラスメートが出した意見に対して、別のクラスメートから「空気読めよー」という一言が放たれた場面があった。途端にクラスのスの雰囲気ガラリと変わり、その後は全く他の意見も出ずに議論が終わってしまった。この一件に関わらず、私は普段の生活の中で「空気を読む」という言葉や雰囲気に接する場面が多く、仲間や周囲の人々が本音で接してくれているのか、疑問に感じることがある。そもそも「空気を読む」ということはどういうことなのだろうか。すっかり耳になじんでしまったこの言葉は実はもう広辞苑にも載せられるくらい日常的な言葉になっている。広辞苑によると「空気を読む」とは「その場の空気を察すること、暗黙のうちに要求されていることを把握して履行すること」と定義されているが、私なりに「空気を読む」こと

の悪い点と良い点を考えてみた。

まず先の私の体験に現われたような悪い点について。

一、本音を出せないことでその人自身がストレスを溜め込んでしまう。

二、周囲が本音を出しているか疑問を抱いてしまう。その結果周囲との信頼関係を築くことができない。

三、物事の議論が深まらず、進歩や進化が止まってしまふ。

こうして並べると悪いことだらけのように感じてしまふが、一方で空気を読むことの良い点もあるように感じる。

一、相手や周囲に合わせることで物事がスムーズに進行する。

二、対立や衝突を避けられるので良い雰囲気を得ることが出来る。

三、相手や周囲から共感を得られることで、自分自身に自信が付く。

このように「空気を読む」ことには悪い点だけではなく良い点もあると思うので、「空気を読みすぎないよう」とか「空気を読むのを

やめよう」といったやり方にも少し違和感がある。

私は生徒会に入ったことをきっかけに生徒の皆さんが本音を出し合い、誰もが輝ける学校にしたいと考えている。そのためには自身や生徒の皆さんが「空気を読む」ことばかりに気を取られて、その結果新たなチャレンジをする気運や機会が失われることがないようにしたい。

そこで、私は学校生活での様々な場面で「ブレインストーミング」という方法を取り入れることを提案したいと思う。これは通称「ブレスト」と呼ばれ、社会ではものづくりやサービスのアイデア出しなどの場面で広く活用される方法だそうだ。「ブレスト」には普段私たちが授業やミーティングで行っているような議論とは異なる三つのルールがある。

- 一、人が出したアイデアに対して否定や批判を一切しない。

- 二、変わったアイデアを歓迎する。

- 三、質より量を重視する（どんどん意見やアイデアを出す）。

もちろん「ブレスト」がなじまないケースもあると思うが、「ブレスト」を活用することで、新鮮・斬新な意見やアイデアを出した人が輝く場を整えて、様々な物事が進捗・進化することを促し、その結果学校全体が活性化することができると考える。

こういう新たな試みを面倒くさいと思う人もいるかもしれない。しかし、私はあえて「空気を読まず」にこの「ブレスト」を広める活動をしていきたい。